

編集後記・Editorials

魚類学雑誌
49(1): 79

新任にあたって

49巻1号から魚類学雑誌の主任編集委員となりました。よろしく願いたします。魚類学雑誌が英文誌である Ichthyological Researchとは別に、和文での論文、会員通信、会記等を発信して、はやくも6年が経ちました。この間、会員のみなさまの御協力と松浦啓一、後藤見両主任編集委員ほか編集にたずさわる多くの方々の御努力によって、魚類学雑誌は国内の魚類学についての情報発信の場として、重要な役割を果たしてきたと思います。前任の後藤見編集委員は分子・遺伝から系統分類学や行動・生態まで、魚類学の各分野に精通しておられ、本雑誌の主任としてまさに適任でした。それに対して、私は魚類の行動・生態を主な研究対象としており、他の分野についての知識・見解は十分ではありません。この点については、みなさまの御協力を仰ぎつつ、私なりの努力でおぎなっていく所存です。本号は総説1、本論文4から構成され、淡水魚の生態につい

ての論文が多くなりました。しかし、現在投稿され検討されている論文を概観しますと、さまざまな分野にわたっており、短報も少なくありません。次号では、各分野の成果を偏りなく掲載できると考えております。総説については、新井崇臣氏による力作が寄せられ、主任としても嬉しく思いました。ただし、編集顧問からは、これまで掲載してきたような大問題を詳説するものばかりでなく、限定された分野についての短い総説があってもよいのではないか、という御意見を頂いています。会員のみなさまもその点でお気軽に投稿して頂ければと思います。

幸いにして、減少気味であった魚類学雑誌への投稿数も増加の兆しを見せています。今後は、できるだけ多くの優れた論文の掲載とともに、先に提示しましたような会員通信等の充実をめざしたいと考えております。とくに、質疑応答などの活用によって会員相互の議論が高まったり、書評や新知見・技術紹介等によって魚類学の新しい展望が見えてくれば、と思います。みなさまの一層の御協力をお願いいたします。(片野 修)